

大分県中小企業・小規模事業者応援金給付事業のお知らせ

大分県では、売り上げが減少しながらも事業の継続、雇用の維持や「新しい生活様式」の実践等に取り組む県内の法人や個人事業者に応援金を給付します。

【対象者と給付額】

①新型コロナウイルス関連の県制度資金や日本政策金融公庫融資を受けた者

法人 30万円 個人事業者 15万円

②令和2年1月1日以降に創業した事業者のうち、小規模事業者持続化補助金等の採択を受けた者

給付額 15万円

詳細は、「おおいた中小企業支援ポータルサイト」をご覧ください。



【問合せ先】大分県中小企業・小規模事業者応援金相談窓口 ☎050-6865-7016

国東を元気にする人 63

愛育会 会長 鹿島 三枝さん (写真中央)

武蔵町愛育会は昭和53年に発足し、地域の皆さんへの声かけや見守りを通じて、母子から高齢者までの健康づくりのお手伝いをしているボランティアグループです。今回、OB会の皆さんが「町内の妊婦さんと子育て世帯のために」と、手作り布マスクを200枚製作してくれました。各家庭に配布に行くと、皆さんが喜んでくださるので嬉しいです。

町全域にあった愛育会も今では町内4地区のみとなり、一時100名を超えていた会員も16名まで減りました。それでも、「愛育のこころ」を絶やさぬよう、人と



の触れ合いを大切にし、これからも地域のために活動が続いていきます。



地域の皆さんの健康づくりのために活動する
武蔵町愛育会・OB会の皆さん

お誕生おめでとう (敬称略) ()内は保護者の名前/5月16日~6月15日までの届出分

5月

9日 安岐町西本 山口 桜愛 (亮馬・愛里)
16日 武蔵町糸原 平野 奨真 (克直・亜実)
17日 国東町小原 本多 一陽 (修一・愛)
18日 国東町田深 大野 咲菜 (博史・真美)

6月

1日 国東町富来 徳丸 智佳 (祐尚・静)
国東町安国寺 藤巻 維楓 (大祐・晃代)

お悔やみ申し上げます (敬称略) 5月16日~6月15日までの届出分

5月

15日 安岐町大添 古庄 正子 (95)
17日 国見町向田 花本 キヌカ (91)
国東町見地 茅嶋 高義 (85)
21日 国東町原 宮川 依子 (83)
22日 武蔵町麻田 高井 アサ子 (75)
安岐町両子 矢野 信子 (99)
安岐町中園 内林 洋子 (78)
23日 国東町田深 西川 富夫 (72)
25日 武蔵町吉広 清原 ケイ (96)
26日 国東町富来浦 上野 貢一 (72)
28日 国東町東堅来 花木 澄子 (89)
国東町北江 島岡 等 (88)
安岐町朝来 宮本 慎二 (87)
29日 国東町来浦 石村 則生 (87)
国東町小原 加藤 吉雄 (91)
30日 国見町野田 後藤 ヒデ子 (94)
国東町綱井 山本 静男 (89)

30日 安岐町下山口 一宮 忠雄 (94)
31日 国東町原 金丸 昭二 (93)

6月

2日 国東町田深 神田 美沙子 (82)
武蔵町糸原 灘波 政勝 (90)
安岐町中園 小俣 タケ子 (96)
3日 国見町赤根 土谷 ミヨコ (84)
武蔵町池ノ内 鶴山 瑞教 (83)
4日 国東町見地 小田原 長弘 (80)
5日 国東町浜 眞城 良一 (71)
7日 国東町浜 青木 百合子 (95)
国東町田深 松木 敦子 (87)
8日 国東町鶴川 平永 イツヨ (90)
9日 安岐町瀬戸田 笠置 基輔 (89)
10日 国東町安国寺 小川 孝雄 (70)
安岐町下山口 佐藤 小枝子 (81)
11日 国東町鶴川 織田 永子 (78)
15日 国東町横手 永松 壽 (86)

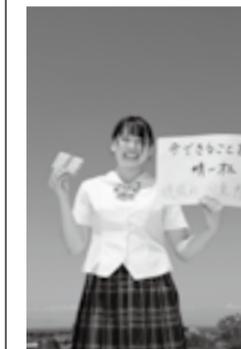
※「お誕生おめでとう」「お悔やみ申し上げます」のコーナーについては、掲載希望の申し出のあった方を掲載しています。

ひとのうごき 人口 27,413 (-32)人 男 13,145 (-11)人 女 14,268 (-21)人 世帯数 13,137 (-14)世帯
主な異動理由 転入49人 転出41人 出生7人 死亡47人 ()内は前月比 5月31日現在

編集後記

中央カラーページは、国東高校双国校のメッセージを掲載しました。生徒自身も不便を強いられる学校生活を送っていますが、「市民の皆さんに元気を届けたい」と快く撮影に応じてくれました。国東高校との統合が決まっている双国校。このページが、良い思い出になってくれればと思います(矢野)

今月号の表紙



~今できることを精一杯~

国東高校双国校2年生の堀田すみれさんは、6月5日に双国校で行われた七島蘭名刺入れの完成報告会で、2年生を代表して感想を発表しました。また、今年度に双国校と市商工会と一緒に取り組む予定の「観光プロジェクト」でも、リーダーを務めます。堀田さんは「こんな時こそ、双国校生として地域を盛り上げたいです。今できることを精一杯頑張りたいです。笑顔で話してくれました。」